



①



②



④



⑤

こんな「安中市」ならいいのに

－話し合いから生まれるアイデア－

「意外と知らない安中市のこと」

ワークショップ(WS)の開催前、市内3校の2年生を対象に、市の住みやすさと行政の取り組みについて電子アンケートを行いました。「休日に遊ぶ所がない」「交通の便が悪い」など、日常生活に基づく率直な意見が目立ちました。

5・6月には、「安中市の今を考えよう!」、「「選ばれる安中市」ってどんなまち?」をテーマに、各校で2回ずつWSを行いました。

実際WSを始めてみると「通学ルートの間くらいしか安中のことを知らない」、「安中市の特徴や名産ってなに?」などと話す生徒が意外と多いことがわかりました。地元の魅力をよく知らない、気づかないまま若者が市・県外に出てしまうのは安中市だけでなく、今や全国的な問題となっています。

そこでWSの前半は、安中市のことを「おさらい」することから始めました。その後、5人程度のグループにわかれ、アンケートの結果や自分の体験に基づいた市の魅力や課題について話し合いました。通学時の公共交通の利便性や、遊ぶ場所が少ないこと、一方で

自然が豊か、歴史的な建物が多いなど、実体験を踏まえた高校生ならではの目線からの意見が活発に出されていました。

夏休み中の7・8月には、各校のメンバーに市役所に集まってもらい、共同でWSを行いました。日ごろあまり接する機会のない、学年も異なる他校の生徒との交流は、逆に静かな雰囲気にならないかという不安もありましたが、緊張感のある中でも積極的にコミュニケーションを取っていました。

「課題の共有 新たな気づき」

共同WSは「選ばれる安中市」になるため、重要なことはなにかを見つけることが目的でした。学校も、興味のある分野も違う生徒たちが、日ごろ感じていることや課題を共有するだけでなく、話し合いから生まれる新たな知見や魅力も、グループを変え、何度も意見をかわすことで、より具体的なアイデアとなってきました。参加した高校生からも、以前より安中市のことを知ることができた、市を良くするための活動ができた、といった感想がありました。